【随　筆】

今年のタンチョウカウント調査

住　吉　　尚
（釧路支部）

毎年のことですが、今年もタンチョウのカウント調査の季節がやってきました。今年のタンチョウカウント調査は１月20日の金曜日から31日の火曜日までの12日間で行いました。１月20日金曜日、調査初日はこれまた毎年のことですが音別地区からです。私はここ何年も尺別から直別の間にいるタンチョウを数える役をやっていましたが、今年は音別給餌場から下流の音別駅までの間で、給餌場には行かない個体がどのくらいいるか？を調べる仕事が与えられました。普通、巡回調査を行う場合は２人で車に乗り、あちこち見ながら行います。運転手はもちろん安全を確かめながらの運転が主になります。助手席の補助員がタンチョウ探しの主役となります。タンチョウを見つけると地図上に発見地点を記入し、発見時刻、発見した数、成鳥か幼鳥か、足輪は付いているか、足輪が付いている時は足輪の番号を読み、記録します。と言うことで、私は運転に専念し、それ以外の仕事は助手にお願いすると言うのが私流です。これはどの辺に行くとタンチョウが見られることが多いか、と言うことが判っている人が運転手の方が、効率良くタンチョウを発見できるからです。一方で、足輪を読むという仕事はやはり若者にかないませんから。今日一緒に調査に当たるのは、この春畜大大学院を修了して社会人になると言う、まだ学生です。でも何度も一緒に調査をしているので安心してお任せできる相手です。さぁー！音別駅を出発し、上流の給餌場までツルを探しながら車を流して行きます。９時半駅集合で班分けや注意などを受けた後ですから、10時少し前からの調査です。最初は未だ川の中で休んでいる個体を見るのが中心になります。昨夜は少しばかりですが降雪があり、家を出る時はまだあまり良い天気とは言えない状態でしたが、調査開始までには天気も良くなり一安心です。朝10時台には未だ川の中にいる個体が多く、日が高くなるほどに農家周りに出てきて、見つけやすくなります。こうして、観察範囲を午前、午後とで合計２回見巡って発見したタンチョウの数と場所を記入していきます。今日はタンチョウの発見数が合計32羽で、この内足輪が付いた個体は８羽でしたから、足輪付きが丁度１/４と言うことでしょうか。足輪が付いたタンチョウが最もよく見られるのは、ここ音別地区です。これは最近十勝地区での足輪付けの成績が良く、東に行くほど足輪付けの成績が良くないと言うことを示しています。私がこの調査に参加する以前は、根室地区での足輪付けが主流でしたから、ずいぶん状況が変わって来ています。これは十勝地区でのタンチョウの繁殖個体が増えたと言うことですが、一方で東に行くほど離農などで耕作放棄地が増え、深い藪の中ではタンチョウのヒナを見つけにくいことと、見つけても上手く囲えないことが多いのが影響しているような気がしています。

翌21日は阿寒のタンチョウ観察センターへ７時半までに集合です。６時半過ぎに家を出て、釧路バイパスに上がるとバックミラーに地平線から昇る太陽が。「さぁー！、今日も一日頑張れよー！」とエールをもらったような気がして走り出しましたが、釧路川にかかる橋まで来るとケアラシがひどく、短い間ではありましたが、視界不良で怖いほどでした。この日私が受け持つことになったのは高速道路の阿寒インターチェンジから釧路寄りの桜田、山花、北斗地区までです。ここでは多くの農家でタンチョウの家族が見られ、タンチョウが増えたことが実感できました。朝は早い時刻からの調査でしたが、鳥インフルエンザ対策とかで給餌時間と給餌量が減らされたため、給餌場からタンチョウがいなくなる時刻が早くなったため、調査終了時刻も早くなっていて、私たちが２度目の巡回を済ませて集合場所に戻ると、もう大部分の調査員は帰った後でした。22日も同様に阿寒が調査場所です。今日も地平線から出たばかりの太陽に背中を押されて出発です。今日は昨日よりさらに寒いのでまたケアラシが！と思いきや。今日はケアラシがありません。オヤ？と思いながら釧路川の水面を見ると全面結氷です。これではケアラシになりようがありませんね。こうして調査３日目も同じような場所を巡回して、阿寒の調査は終了となりました。

さて翌日の１月23日の月曜日です。今度は十勝方面、池田駅に９時半に集合です。集合２時間前に家を出て高速で本別まで走り池田駅へ。集合時刻に余裕が少しある時間に到着です。ここでの私の調査範囲は池田から本別の間の利別川沿いが割り当てられました。ここは利別川の築堤上を車で走れないと調査になりません。でも今年は雪が固く除雪もされていないために築堤上を走れないので苦戦です。まずは利別川の東側を本別方面へ走りながらの調査です。毎年いるはずの農家周りを探しましたが、今朝付いた新しい足跡が２羽分あるのですがタン

チョウの姿は見えず、本別までの間で遠くを飛んでいる２羽を見ただけでした。今日はダメかと思いながら本別で昼食を摂り、今度は利別川の西側を下ります。ここでやっとタンチョウの姿が見え、合計10羽ほどを見て調査は終了でした。この範囲では調査は１回きりしか行えません。そして24日の火曜日は道の駅忠類に昨日と同じ９時半までに行かねばなりません。今日も２時間前に家を出れば到着するものだと思って出発しましたが、昨夜の降雪の影響で釧路・白糠間がノロノロ運転でした。理由は除雪車が走っているためで、反対車線は白糠から釧路へと通勤する車が多いので、除雪車を追い越すことができません。こうして忠類までの間で10台もの除雪車を追い抜いてやっと到着しました。ここまでは２時間半を見ておかねばならなかったのですね。ここでは例年と同様に午前中は当縁川をねぐらにしているタンチョウを勢子が追い出し、飛んで行くタンチョウを我々が数えると言う作戦でした。ただ私がいた場所からは数羽のタンチョウを見ただけでした。午後も例年と同じで、私の担当は小紋別川流域から豊似の市街地までででした。与えられた時間は２時間ほどですから、もちろん１回巡回しただけでした。そしてこの日の場合は、調査より調査地点への行き帰りの方が大変な１日でした。

いつものように水曜日はお休みで、26日の木曜日は標茶町の南東部中チャンベツの周辺が調査地で、私は阿歴内と片無去が担当でした。ここは調査面積が広い割にタンチョウの個体数が少ないので、ただただ車で走り続けただけのような一日でした。そしてこの日、私が愛用していたコールマンの双眼鏡をどこかに落としてきてしまいました。車のドアーポケットに置いていたので、ドアーを開けた時に雪の中に落ちてしまったようです。小型で軽いと言うので気に入っていたのですが、がっかり！それでこの後は50年前に買ったニコンの重たい双眼鏡を使うことになりました。27日は標茶町の町から南方面のシラルトロまで、西側は厚生と沼幌が調査区域です。開発局河川課の車での調査の予定でしたが車の数が足りないとかで、この日も私の車での調査となりました。調査範囲が広いので、この日も調査区域を１度しか巡回できませんでした。１度では見落としが多いので２度は巡回したいのですが、今年は給餌場周辺を除くとほぼ１度しか見巡れないと言う状態でした。こうして翌28日は、今度は鶴居村周辺の調査です。鶴居の調査地点では今朝は気温が下がり－20℃を指していました。このため、定点観察者は完全な防寒武装をしての調査となります。ただ寒いのが苦手な私には、ここでも巡回調査が割り当てられています。ここは調査地区が狭いので２度調査ができます。ただし、ここでは私ひとりでの巡回調査です。そして私は連日の調査参加ですから、自分の調査終了で帰らせてもらいます。これが29日の日曜日も同じ場所で同じ調査でした。と言うことでこの調査地区は２日間で４回の巡回調査ができました。こんなに回って、やっと見つけた個体もあるのですよ。

さて１月30日の月曜日は浜中方面の調査です。ここは連日の調査で疲れ気味の老人のために運転手付きでの調査でした。私に割り当てられたのは太田の東側で国道44号の北側、厚床までの風連川の南側です。ここではタン

牛の間にいたり

足跡しか見つけられなかったり

定点観察は完全防寒武装して

チョウの数はそこそこ見られたものの、足輪付きの個体は全く見ることができませんでした。こうして１月31日火曜日が最終日に。今度は上春別から東南に、西別川と床丹川に挟まれた地区を海までです。この地区では例年以上にタンチョウが見られ、合計53羽ものタンチョウを見て今年のタンチョウカウント調査が終わりました。巡回調査のコツは最初に巡回を始めた地区を、帰りに見ながら戻って来られるようにコース取りをする、と言うことでしょうか。これで見落としを少しでも拾って帰ることができます。こうして調査が終わりましたが、サロベツで足輪を付けたタンチョウも確認されました。このことから、どうやらサロベツのタンチョウはほとんどが釧路周辺で越冬するようです。ただ昨年足輪を付けたタンチョウで、現在のところ唯一発信器が動いている個体は、昨年の越冬地である鶴居には飛来せず、興部川で越冬していることが判っています。近年オホーツク管内で越冬する個体が見られるようになってきていて、十勝の猪俣会員は上湧別で越冬している個体を見ているとのこと。ところで、こんなタンチョウの調査でどのぐらいの発見確率があるのか？見逃し率はどのぐらいなのか？については何時も気になっているところです。これを地区を決め、ひとりで何回も巡回して発見できる確率を計算した人がおりますが、彼によれば巡回１回で発見できる確率は40％ぐらいだろうとのこと。がんばって調査をしているのでもう少し確率が高いとしても、せいぜい50％程度と言われてしまうとがっくりです。

今年の調査を振り返って感想を述べると、有名な給餌場での給餌が鳥インフルエンザ対策や分散化の促進と言うことで給餌量が大きく減らされているので、給餌場に依存する個体は大きく減っているようです。では多くのタンチョウはどこに行ったのか？多くはあちこちの農家の堆肥山かバンカーサイロで餌を獲っています。このため、巡回調査は農家を１軒ずつのぞいて歩くと言うことになります。でも農家にはいろいろな建物があり、運が良くないとタンチョウを見つけられません。こうして十勝から根室までの農家を見て歩きましたが、最近になって搾乳を止めてしまった農家や、育成もやめて全く牛の匂いがなくなり、草だけ積んであるところや、まったく人の気配が感じられない家も増えているようです。そして大規模な農場は周辺がきれいに整理されていて、タンチョウが餌を拾いに来ることはほとんどありません。農業の変化が今後のタンチョウの越冬にも大きな変化をもたらしそうですよ。

こんな所で見るのは初めてでした

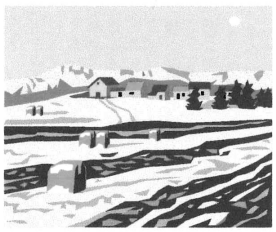
堆肥山にいたり

サイレージに付いていたり

〈句題〉　春

「寒明けて　光の春の始まれり」

「春一番　化粧落としの交差点」

「朝昼晩　冬を消し去る風の春」

（室蘭市　白波瀬　稔歳）